

**長崎県子どもの生活に関する  
実態調査業務  
報告書  
〔概要版〕**



**令和6年3月**

# 目次

## I 調査概要

1 実施期間.....	1
2 調査対象.....	1
3 参加市町・学校数.....	1
4 調査方法.....	1
5 有効回答数及び有効回答率.....	1
6 本調査における収入の分類.....	1
7 収入の水準による世帯の呼称.....	1

## II 調査結果の分析

保護者の生活状況：生活・行動実態、課題等.....	2
1 収入の水準による世帯数と割合.....	2
2 家族形態による世帯数と割合.....	3
3 世帯収入(2022年の1年間).....	3
4. アンケート調査の結果から見える主な傾向.....	4

## I 調査概要

本調査は、県内の子どもの生活状況や支援制度の課題等を把握し、今後より効果的に子どもの貧困対策等を推進するため、全県的に「長崎県子どもの生活に関する実態調査」を実施した。

### 1. 実施期間

令和6年1月10日（月）～2月9日（金）

### 2. 調査対象

長崎県内在住の小学生4,138世帯、中学生4,560世帯

### 3. 参加市町・学校数

21市町238校（小学校137校、中学校101校）

### 4. 調査方法

市町が対象校を選定のうえ、県が決定

調査票は学校を通じて配布、webフォームによる回収

### 5. 有効回答数及び有効回答率

対 象	配布数	有効回答	回収率
小学5年生の保護者	4,138	2,516	60.8%
小学5年生	4,138	2,438	58.9%
中学2年生の保護者	4,560	2,441	53.5%
中学2年生	4,560	2,402	52.7%
合 計	17,396	9,799	56.3%

### 6. 本調査における収入の分類

令和3年12月に公表された「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（内閣府政策統括官）」による等価世帯収入の算出方法を用い、国と同様に「等価世帯収入の中央値の2分の1未満」に該当する世帯を貧困の課題を抱えている世帯であると考え、集計・分析を行った。

### ■本調査における長崎県の等価世帯収入の中央値の2分の1の値 112.5万円

※参考：国が実施した子供の生活に関する実態調査（調査期間 令和3年2月12日～3月8日）における等価世帯収入の中央値の2分の1の値 158.8万円

### 7. 収入の水準による世帯の呼称

- 等価世帯収入の中央値の2分の1の値である112.5万円以上となる世帯の呼称を「世帯区分1（Ⅰ層）」とする。
- 等価世帯収入の中央値の2分の1の値である112.5万円未満となる世帯の呼称を「世帯区分2（Ⅱ層）」とする。

収入の水準	世帯の呼称
112.5万円以上	世帯区分1（Ⅰ層）
112.5万円未満	世帯区分2（Ⅱ層）

## II 調査結果の分析

- 本報告書では、小学5年生・中学2年生とその保護者の生活実態を把握するとともに、等価世帯収入の「中央値の2分の1未満の世帯」と「親の婚姻状況」別に比較分析を行った。
- 本調査における長崎県の等価世帯収入の中央値の2分の1の値は112.5万円となっている。これは、国が実施した子供の生活に関する実態調査（調査期間 令和3年2月12日～3月8日）の158.8万円より低くなっている。
- 分析の結果、世帯収入の水準や親の婚姻状況によって、子どもの学習・生活など様々な面が影響を受けていた。等価世帯収入が中央値の2分の1未満の世帯や、ひとり親世帯が、親子ともに多くの困難に直面している。
- 保護者と子どもの回答をクロスすると、保護者の子どもへの関わり方、関心の持ち方が、子どもの学力や自己肯定感・意欲等の変化の要因となっていることが分かる。

### ■保護者の生活状況：生活・行動実態、課題等

- 令和4年の世帯全員のおおよその年間収入について、同居家族の人数を踏まえて「等価世帯収入」の水準により分類した。小学5年生及び中学2年生のいる世帯を合わせた全体で、等価世帯収入の水準が中央値の2分の1以上は86.1%、中央値の2分の1未満が13.9%であった。

#### 1. 収入の水準による世帯数と割合

世帯の呼称		世帯数	割合
小学5年生	世帯区分1（I層）112.5万円以上	2,181	86.7%
	世帯区分2（II層）112.5万円未満	335	13.3%
	無回答	0	0.0%
	小計	2,516	100.0%
中学2年生	世帯区分1（I層）112.5万円以上	2,089	85.6%
	世帯区分2（II層）112.5万円未満	352	14.4%
	無回答	0	0.0%
	小計	2,441	100.0%
全体	世帯区分1（I層）112.5万円以上	4,270	86.1%
	世帯区分2（II層）112.5万円未満	687	13.9%
	無回答	0	0.0%
	合計	4,957	100.0%

## 2. 家族形態による世帯数と割合

世帯の呼称		世帯数	割合
小学5年生	ひとり親世帯（A層）	395	15.7%
	非ひとり親世帯（B層）	2,119	84.2%
	無回答	2	0.1%
	小 計	2,516	100.0%
中学2年生	ひとり親世帯（A層）	442	18.1%
	非ひとり親世帯（B層）	1,996	81.8%
	無回答	3	0.1%
	小 計	2,441	100.0%
全 体	ひとり親世帯（A層）	837	16.9%
	非ひとり親世帯（B層）	4,115	83.0%
	無回答	5	0.1%
	合 計	4,957	100.0%

### 【参考】

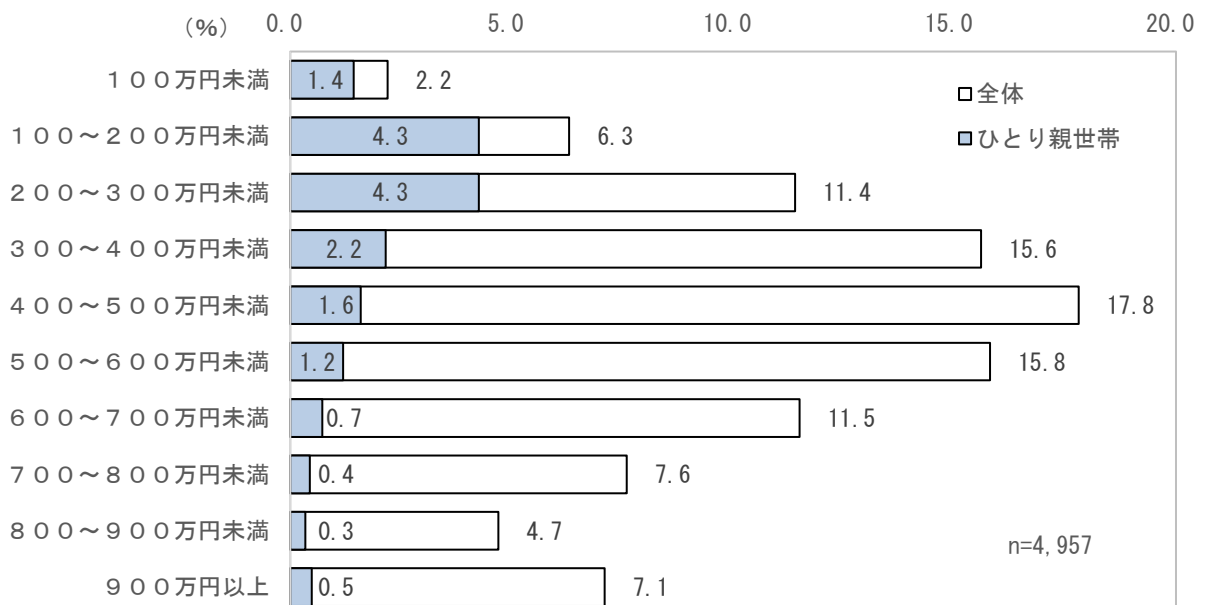
令和4年国民生活基礎調査によると、令和3年の貧困線（等価可処分所得<sup>\*</sup>の中央値の2分の1）は127万円で、子どもの貧困率は11.5%であり、約9人に1人の子どもが相対的貧困の状態にある。

一方、令和3年度に長崎市が実施した子どもの生活に関する実態調査によると、同市の貧困線は123.0万円であるが、国民生活基礎調査とは調査対象、世帯所得の把握の方法等が異なるため、正確に比較はできない。また、貧困線を下回る世帯の割合（子どもの貧困率）は10.3%である。

※等価可処分所得：世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得をいう。

## 3. 世帯収入（2022年の1年間）

世帯全員の収入を合わせた世帯収入に関する設問（保護者調査票：問18）による平均世帯年収は496万円であり、その分布は以下の通り。



## 4. アンケート調査の結果から見える主な傾向

### 保

#### 保護者

中央値の2分の1未満の世帯の保護者の就労状況は「正社員・正規職員・会社役員」の割合が低く、経済的要因により子どもの進学や生活環境に対する考え方に影響している。子どもの進学について中央値の2分の1未満の世帯は4割が進学は高校までが多く、希望の進学が見込めない理由は「経済的余裕がないから」が多くなっている。また、保護者は父母ともに自身の最終学歴以上を望む傾向がみられる。

#### 子ども

中央値の2分の1未満の世帯の子どもは学校での勉強内容の理解や進学意識や生活の規則性に影響が出ている。学校が楽しくないと回答する子どもは「中央値の2分の1未満の世帯」や「ひとり親世帯」で楽しくないと答える割合が高く、その理由が「勉強が嫌いだから」「授業がわからないから」で他世帯に比べ高くなっている。これは勉強が「わからない」の回答が「中央値の2分の1未満の世帯」や「ひとり親世帯」で高くなっており中学校では他世帯の約1.5倍になっている。

一方、勉強の理解にかかわる事柄で食事・起床時間や読書の時間、携帯電話やスマホ・ゲームなども利用時間が子どもの理解度（わかる）に大きく影響している。衣食を規則的に行っていることと、読書の時間を長くとることは理解度を高め、長時間の携帯電話やスマホ・ゲームを行うことは理解度低下につながっており、この傾向は年代の上昇とともに差が大きくなっていく。

#### 親子クロス

保護者と子どもの進学意向は大きく変わらないのは、保護者の意向が子どもの意向に影響を与えているとも考えられるが、親の期待が子どものチャレンジ意欲や自己肯定感に良い影響を与える傾向もみられる。また、保護者の関わりがあるほど子供の理解度が高くなる傾向があり、また、保護者の最終学歴が高いほど子どもの理解度は高い傾向が見られ、母親の方がその影響が強く出ている。

一方、経済的要因と子どもの学力について、学校外教育と家庭の家計の影響は「2分の1未満の世帯」、「ひとり親世帯」で小学生では「世帯区分Ⅰ」、「非ひとり親世帯」と比べやや劣る程度であるが中学生では差が小学校に比べ倍以上に広がっている。つまり、保護者の経済力が子どもの学力に影響するという状況は変わっていない。

アンケート調査結果抜粋

- 親の就労状況について、「正社員・正規職員・会社役員」と回答した割合は、母親においては中央値の2分の1未満の世帯で全体より低く、父親においては中央値の2分の1未満の世帯及びひとり親世帯のいずれも全体より低くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
保護者	母親の就労状況について「正社員・正規職員・会社役員」と回答	35.6%	39.6%	23.9%	28.1%	43.3%	50.5%
	父親の就労状況について「正社員・正規職員・会社役員」と回答	75.8%	73.9%	43.9%	38.1%	47.8%	43.4%

- 現在の家計の状況が最も近いものとして「赤字であり、貯蓄を取り崩している」または「赤字であり、借金をして生活している」と回答した割合は、中央値の2分の1未満の世帯では、全体の約2倍となっている。また、ひとり親世帯についても全体より高くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
保護者	現在の家計の状況が最も近いものとして「赤字あり、借金をして生活している」又は「赤字であり、貯蓄を取り崩している」と回答	30.8%	34.5%	55.7%	54.9%	36.2%	45.3%

- 中央値の2分の1未満の世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」があると回答した割合が、全体の2倍を超えており、「公共料金の未払い」が生じている割合も高い。また、ひとり親世帯についても全体より割合が高くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
保護者	過去1年間で、必要な食料品が買えなかったと回答	5.1%	5.2%	13.5%	16.2%	9.7%	9.7%
	過去1年間で、必要な服や靴を買うのを控えたと回答	23.0%	24.5%	38.9%	46.2%	30.9%	37.0%
	過去1年間で電機、ガス、水道などが止まったと回答	1.5%	2.0%	6.0%	6.4%	3.1%	5.7%

- 中央値の2分の1未満の世帯やひとり親世帯では、子どもが将来どの段階まで進学するかの希望に関して「大学またはそれ以上」と回答した割合が低くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
保護者	子どもの将来の進学の希望が「大学またはそれ以上」と回答	51.5%	46.5%	31.3%	27.9%	43.8%	33.9%

- 子どもの進学段階について「希望通りにならない」と考える理由として、中央値の2分の1未満の世帯・ひとり親世帯では「家庭の経済的な余裕がないから」と回答した割合が高くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
保護者	子どもの進学段階について「希望とおりにない」と考える理由として「家庭の経済的な状況から考えて」と回答	33.7%	26.0%	40.6%	26.7%	51.6%	27.4%

- 無料または安価な「子ども食堂」の利用について中央値の2分の1未満の世帯・ひとり親世帯で「参加させたい」と回答した割合が高くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
保護者	無料または安価な「子ども食堂」の利用について「参加させたい」と回答	42.4%	34.8%	54.5%	45.7%	46.7%	41.8%

■子どもの生活状況：生活・行動実態、課題等

- 学校での勉強内容について、一番あなたの気持ちに近いもので「わからない（「あまりわからない」+「ほとんどわからない」+「まったくわからない」）」と回答した割合は、それぞれ中央値の2分の1未満の世帯やひとり親世帯で全体より高くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
子ども	学校での勉強内容について「わからない」と回答	9.5%	28.0%	14.4%	35.3%	11.6%	34.6%

- 中央値の2分の1未満の世帯やひとり親世帯では、進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」と回答した割合が全体より低くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
子ども	進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」と回答	45.2%	47.1%	31.3%	32.0%	41.2%	38.4%

- 中央値の2分の1未満の世帯やひとり親世帯では地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していない割合が高い。また、部活動に参加していない理由として、中央値の2分の1未満の世帯やひとり親世帯では、「加入したいが、保護者に用具代（バット、ラケット、ユニフォームなど）の負担をかけられないから」と回答した割合が高い。



回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
子ども	地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に「参加していない」と回答	44.6%	17.7%	56.5%	22.0%	56.5%	22.8%
	部活動等に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答	2.9%	2.3%	5.7%	4.5%	6.3%	3.5%

●中央値の2分の1未満の世帯では学校が終わってから夕食までの間、自宅・祖父母宅以外での過ごす場所が低くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
子ども	学校が終わってから夕食までの間過ごす場所（あなたの友人の家）と回答	9.9%	2.0%	7.6%	2.3%	10.1%	2.7%
子ども	学校が終わってから夕食までの間過ごす場所（塾）と回答	6.0%	10.3%	1.8%	6.7%	5.0%	8.3%
	学校が終わってから夕食までの間過ごす場所（習い事の教室等）と回答	26.7%	9.7%	16.5%	7.3%	19.2%	8.1%

●中央値の2分の1未満の世帯やひとり親世帯では、平日の起床について「ほぼ同じ、どちらかと言えば同じ」と回答した割合が全体より低くなっている。

回答者	回答内容	全体平均		中央値の2分の1未満の世帯の平均		ひとり親世帯の平均	
		小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
子ども	平日の起床について「ほぼ同じ、どちらかと言えば同じ」と回答	90.4%	92.1%	85.6%	90.3%	88.4%	90.1%